

平成9年度～平成11年度 厚生科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）  
総合研究報告書  
並びに  
平成11年度 厚生科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）  
総括研究報告書

## 保健所の調査企画部門の充実のための 研修のあり方、体制整備に関する研究

平成12年3月

保健所の調査企画部門充実に関する研究班

# 目 次

1	平成9年度～平成11年度 総合研究報告書	1
2	平成11年度総括研究報告書	15
2.1	研究班メンバー及びワーキンググループメンバー	21
2.2	研修会受講者	23
2.3	研修会の経過	25
2.4	グループワークの結果	37
2.5	研修会資料	45

## 2 平成11年度総括研究報告書

厚生科学研究費補助金（健康科学総合研究事業）  
総括研究報告書

保健所の調査企画部門充実のための研修のあり方、体制整備に関する研究

主任研究者 平田輝昭

福岡県保健福祉部医監

研究要約

福岡県は平成9年の保健所組織改革で企画部門の組織強化が行われたが、内容の充実のためには体系的研修は不可欠であった。しかし、これまで保健所の保健情報の収集・活用のための具体的研修方法についてはあまり検討がなされてこなかった。

一方、福岡県には保健情報に関し専門家を擁する保健環境研究所情報管理課があり、その活用・保健所等との連携が課題でもあった。平成9年より、これらを課題として情報処理リーダーの養成に主眼を置き研修のあり方の実践研究を行った。

保健所長会を研究班、県庁・保健所・保健環境研究所等からなるワーキンググループを実施班とする研究組織は9年度、10年度と同様である。ワーキンググループが中心となって、研修の企画・実施・評価、研修前・後の受講生の変化の把握等を行った。

平成11年度は年度前半で企画を行い、9月から3月までおおむね月1回、全8回各保健所2名の同一対象者に試行研修を行った。募集基準は「業務で積極的にデータベースを活用したい人」「情報処理のためパソコンを活用している人」とした。研修内容は、統計の基礎、人口動態統計、アンケートの取り方、業務管理データベース作成等。講師は主として保健環境研究所および保健所職員が勤めた。研修助手してワーキンググループメンバーが加わり、遅延者の手助けを行った。研究の評価方法としては、研修前の対象者のパソコンの知識、利用状況、保健統計の基礎知識、情報管理の状況等統計・情報処理のレベルを確認するためアンケート調査。各研修終了後の保健所、保健環境研究所、本庁間の電子メールで研修内容に対する理解度、感想調査。また、全ての研修終了後に再度研修に対する評価のアンケート調査、及び保健所での所長、受講生よりの聞き取り調査を行った。

結果として、○保健所の具体的業務と結びついた研修テーマを選び、その後の活用を支援する。○研修日以外も双方向で情報交換を行い、連続性を保ち、研修内容を深める。○外部講師にたよることなく、内部職員を大いに活用することで、親近感を増し、研修後の指導を充実させる。○個人の教養研修と誤解されないよう受講生に研修目的をくり返し伝えるとともに、一定程度、伝達研修等責務を課す。○保健所幹部職員の認識と理解を得るためくり返し説明を行う。○研修の進行をスムーズに進めるため研修生のレベルをそろえる。等が有用であることが明らかとなった。なお、情報処理を効率的に進める保健所体制のあり方については、県の保健情報システムの大幅な計画縮小に伴い、当面、企画指導係を中心としながらも各係に管理指導する者を配置する方法が現実的で、できるだけ多く統計や機器を理解した人材を輩出し、必要時に対応できるようすることが望ましいとの考えに至った。研修は今後形を変え事業として継続される予定である。

## A 研究目的

福岡県では平成9年4月に保健所組織の大幅な見直しを行った。

保健所を地域保健の広域的、専門的かつ技術的な拠点として機能させるため、全保健所に地域保健に関する企画、調整及び連絡業務を所掌する総務企画課企画指導係を設置した。企画、調整及び連絡業務には多種多様な内容が考えられるが、福岡県はその業務内容を大きな一つとして、「地域保健情報の収集及び提供に関する事項」を掲げ、地域保健対策の推進に必要な各種情報の収集、整理及び提供を行う「シンクタンク」として業務を実施することとした。

このように地域保健情報の処理は、保健所の今後の重要な業務となることが予想されるが、残念ながら実際に業務を担当する保健所職員の保健情報処理能力は不十分な状態にある。与えられた命題を実現していくためには、これまでの研修とは異なった充実した研修が保健所職員に対し実施される必要がある。

これまでの保健情報研修は、各業務担当者を対象とするキーボード操作の研修や、県職員研修所での一般教養的研修が多く、保健所の情報処理力の強化をめざした体系だった研修はなかった。当研究では、試行する研修を「ある程度の情報処理能力を有する保健所職員を対象とし、研修を通じより効果的保健情報処理の研修のあり方や体制整備について評価検討することを目的とした。本年は、平成9年度からの研究の最終年度に当たる。

## B 研究方法

### 1 試行的研修の実施

#### (1) 研修内容

研修内容の大枠は1年目、2年目と同様で「基礎統計学実習」、「データベース活用実習」および「パソコンネットワ

ーク実習」が基本となっている。

今回は統計の基礎学習とデータベースの応用を兼ねた「アンケート調査法」の講義実習を新たに加えた。また、「グループ討論」の時間を設け、受講生の情報処理力の現状、問題点、希望等を討論してもらい、自己認識を高めてもらった。

研修の具体的内容、カリキュラム構成は1、2年次における受講生の意見、アンケート結果等を踏まえ、見直しを行いできるだけ現場の業務と密着したものとすよう努めた。

研修内容は表1の如くである。

#### ①基礎統計学実習

保健所を地域保健の広域的、専門的かつ技術的な拠点として役割を果たすためには、各業務の地域における状況を客観的・科学的データを持って把握・分析し、それを基礎として、今後の業務のあり方を考えていくことが必要となる。

特に、市町村その他関係機関への指導・連携等対外的場面においては、客観的・科学的データに基づく協議が不可欠となっている。

今回は、人口動態の基本的知識を講義すると共に、新たに作成した人口動態統計DB(CD)(昭和53年からの市町村別死因別年齢階級別死亡数、国勢調査人口、出生数をAccessを用いてデータベース化し、CDで各保健所に配布した。)の利用方法について解説を加え、グラフの作成や年齢調整死亡率の計算などを行うと共に、一部について有意差検定等の分析を行った。

また、統計学の基本を講義し、保健所で非常に多く活用するアンケート調査について目的にあったサンプリング法、設問の制作方法、企画書の作り方等々について研修を行った。

## ②データベース活用実習

保健所には多種多様なデータが収集されているが、その蓄積は保健所ごとにまちまちで

保管・整理が悪いものも見られる。

これは非効率であるだけでなく、客観的・科学的データ分析を困難としている。

研修では、高性能で操作が容易となっているデータベースソフト（Access）を利用し、簡単なデータ蓄積用のプログラムを作成した。

今年度は結核の接触者検診住民の呼出しシステムを例に挙げ検討した。

また、アンケート調査結果を、集計分析するに当たって便利なデータベースソフトの利用方法についても研修を行い、その中でテーブル、クエリー、フォーム、レポートの作成方法を実習を加えながら講義した。

したがって、今回はデータベースソフト（Access）に関連した研修は、人口動態統計DB（CD）、結核の接触者検診システム、アンケート調査の3方向から行われ濃密なものとなった。

## ③パソコンネットワーク研修

整備が進められる予定であった地域保健情報システムのネットワークの基礎を研修するのが当初の目的であったが、システム計画が縮小されたため、パソコンネットワーク研修は当研究のための情報交換、およびインターネット等に対応するための研修として実施した。

研修会場において各自持参（保健所所有）のノートパソコンをLANで保健環境研究所情報管理課に設置されたホストコンピュータと連結し、データの共有を試みると共に Netscape Mail を利用して電子メールの操作研修を行った。

各研修の終了後には、保健所と保健環境研究所の連絡を電子メールで行い、講義に対するアンケートの送付・返信、宿

題の提供・回答等に利用した。

## （2）研修対象者

研修対象者は各保健所より2名とした。研究の1年次、2年次には企画機能の強化という目的に直接的に沿った形で企画指導係を中心に募集を行ったが、今回は職員が保健所内で異動することを考慮し特に係を限定せず、「研修の中身に着目して業務に積極的にデータベースを活用したいと考えている人」「現在、業務で情報処理のためのパソコンを活用している人」とした。

## （3）研修頻度等

平成11年9月より平成12年3月まで、おおむね毎月1回、合計8回実施した。

## （4）講師

講師は、保健環境研究所、保健所職員、県庁職員が努めた。

保健所職員は異動等に伴い一部交替したが、保健環境研究所研究員については1年次、2年次と同一の講師が勤めた。外来講師については、スケジュール外での講演会の開催を計画していたが、時間調整がうまくゆかず中止となった。

## （5）研修場所

毎回、保健環境研究所講堂で実施した。保健環境研究所情報管理課に設置されたホストコンピュータと各保健所より持参したノートパソコンをLANで接続し実習をおこなった。保健所に帰ってからの保健環境研究所との情報交換を違和感なく行えるようにするためでもあった。

講義は前もってホストコンピュータに入力しておいたデータや講師が作成したテキストに基づいて実施した。

## 2. 研究グループ

研究の趣旨を徹底し、各職場の協力を得るため、保健所長会メンバー全員で研究会を構成するとともに、保健環境研究所職員、保健所職員、県担当課職員、看護学校教員でワーキンググループを構成し研究を進めた。

ワーキンググループ会議は、開催前に4回開催し、対象者のレベル研修目標・内容、研修スタッフの役割、研修後の所内伝達のあり方等を検討した。

毎回研修日にも、ワーキンググループ会議を開催、研修講師と研修内容、研修に対する研修生の反応を評価し、次回研修の具体的な方法について話し合った。

## 3. 評価

試行的研修に先だって、対象者のパソコンの知識、利用状況、保健統計の基礎知識、情報管理の状況等統計・情報処理のレベルを確認するためアンケート調査を実施した。

また、各研修の終了後に電子メールで研修生へ研修内容に対する理解度、感想等を調べるアンケートを送付し回答してもらった。また、全ての研修終了後、再度研修に対する評価のアンケート調査を行った。

さらに、研究者が直接、保健所に出向き保健所長や受講生より所内での研修結果の活用状況等を聴取した。

### C. 研究結果および考察

#### 1. 試行研修

(1) 研修生は原則として保健所(13ヶ所)支所(3ヶ所)から各1~2名の計31名で構成された。

職種は保健婦12名、事務職6名、放射線技師5名、医師3名、薬剤師2名、栄養士2名、獣医師1名とまちまちであった。

所属は、データベース研修の例を結核

接触者検診呼び出しシステムとしたこともあって感染症係が11名で最も多く、次に企画指導係9名、支所保健課4名、精神保健福祉係3名、健康増進係2名、支所総務衛生課2名となっていた。

(2) 参加者条件に本年は結核接触者検診のデータベースを取り上げること前置きし、前年度の研修実績を添付し、募集基準として「業務に積極的にデータベースを活用したいと考えている人」「現在、業務で情報処理のためのパソコンを活用している人」をあげた。

(3) 受講前の受講生のコンピュータの使用状況・知識レベルは、アンケートの結果によれば、表計算ソフトを使用しているもの77.8%、データベースソフトを使用している者45.8%、E-mailの利用は48.0%であった。また知識面では、「正規分布」について・調査研究で使ったことがある14.8%・内容が理解できる48.1%・聞いたことがある29.6%・何のことかわからない7.4%。「標準偏差」については、・調査研究で使ったことがある11.5%・内容が理解できる42.3%・聞いたことがある38.5%・何のことかわからない7.7%であった。

研修の性格を絞り込んだことで対象者にデータ処理に関連した職員がやや増えた感はあるが、統計的な面での知識は、必ずしも高くなかった。

募集基準に合わない人選がなされている保健所が相変わらずあるが、聞き取り調査では各保健所の選定状況はまちまちで、条件には関わりなく希望者を優先している保健所、人数が少ないため条件に合わない人でも応募させざるを得ない支所も見られた。

(3) 研修の出席率は、88%と前年の出席率に比べ15%の改善をみた。

前年の研修では、日常業務の多忙な企

画指導係長を研修生に半ば強制的に加えたこと、月に2回のペースで実施したことで事業との調整がつかない職員が多かった増えたことなどが考えられたことから、本年度は対象を希望者に戻し、月1回の一昨年のペースに戻したこと、また、初回の講義の中で研修の目的について詳しく説明したことによると思われる。

(4) 研修後に行ったアンケート調査の結果では、「以前より Excel、Access を使うようになったか」では、60.7%が使うようになったと答えているが、「E-mail の利用」は46.4%

と研修前とほとんど変化なく、「以前に比べパソコン操作が上達したか」の質問に対しては、「思う」44.4% 「思わない」14.8% 「分からない」40.7%で半数以上の方がパソコン操作の上達を感じていなかった。また、「研修後保健所内でレベルアップのために行動したか」の質問に対し「行動した」46.4% 「行動しなかった」53.6% 「研修後保健所内で情報整理について検討したか」の質問に「した」14.3% 「しなかった」85.7%であった。

伝達研修が実施されていない保健所もあったが、その理由としては、「所内にパソコンが少なく研修できる環境にない。」 「受講生が他職員に教えるレベルにまで達していない。」等前年と同様の理由が聴かれた。また、「研修内容の理解度」では、「電子メール」「結核データベース」「アンケートの取り方」では理解度が高かったが、「統計の基礎」「人口動態統計解析」では理解度がやや低く統計の講義への拒否反応があるものと考えられた。

しかし、「今後もこのような研修があればよいと思うか」の質問には「思う」96.4% 「思わない」3.6% 「再度受けたいか」には「受けたい」55.6% 「レベルがあがれば受けたい」18.5% 「レベルが下がれば

受けたい」18.5% 「受けたくない」7.4%(ただし1名は別の人に受けてもらいたい)との答えであった。

(5) 昨年度に比較し、出席率は大いに上がり、講義内容も参加者の要望に従って改善してきているが、その結果が必ずしも保健所の事業の改善には結びついていない。

受動的な研修になっているのではないか、あるいは、3年目を迎え受講生意識の新鮮味がなくなり個人の教養研修であっても許される風潮が広がってきたのではないか等が危惧された。

受講生の意識・行動を把握し、目的意識的態度を生み出すため、健康教育での住民を対象としたPPモデルの手法を応用してグループ討論を実施した。そのなかで、事務局が業務を進めるための手法として位置づけている統計、パソコンが受講生にはレベルが高すぎて乗り越えられていない。あるいは、事務局サイドでの受講生の到達目標についての意思統一が不十分である。等の反省すべき点も明らかとなった。

(6) 事務局へのパソコン、統計での問い合わせ、情報交換件数は、人口動態統計CDを配布したこともあり1年目、2年目よりも増え保健環境研究所機能に対する保健所の認識が変わっていることを伺わせた。これらの問い合わせは1年目、2年目の受講生からも行われており研修の役割の一部が成功しつつあることが伺われた。

## 2 保健所での情報管理の体制について

当初、企画指導係を保守管理や指導体制の中心に据えることが最も適当であるとの仮説を立て検討を開始したが、保健情報システムの計画が大幅に縮小し、それぞれが独自に本庁と連絡を取り合うシ



システムでは、企画指導係を中心としながらもそれぞれの係に保守管理する者を配置する方法が容易で現実的である。そのため、当面、できるだけ多く統計や機器利用法を理解した人材を輩出し、必要時に対応できるようにすることが望ましいとの考えに至った。

### 3 研修を充実させるために

試行研修を通じ次のようなことが研修を充実させるために重要であることが分かった。

○保健所の具体的業務と結びついた研修テーマを選び、その後の活用を支援する。

○研修日以外も双方向で情報交換を行い、連続性を保ち、研修内容を深める。

○外部講師にたよることなく、内部職員を大いに活用することで、親近感を増し、研修後の指導を充実させる。

○個人の教養研修と誤解されないよう受講生に研修目的をく返し伝えるとともに、一定程度、伝達研修等責務を課す。

○保健所幹部職員の認識と理解を得るためくり返し説明を行う。

○研修の進行をスムーズに進めるため研修生のレベルをそろえる。

試行研究の実施の結果、これまでの教養的研修を一步脱却し、組織的に還元できる研修になりつつある。新年度には事業として実施予定であるが、さらに研修方法等の改善をはかることで保健所情報処理力のアップにつなげたい。

## 2. 1 研究班メンバー及びワーキング グループメンバー

## 研究班メンバー（福岡県保健所長会）

財津	裕一	筑紫保健所長
田島	静	粕屋保健所長
金出	明子	宗像保健所長
宮崎	親	朝倉保健所長
宇治	光治	糸島保健所長
友岡	裕治	遠賀保健所長
児玉	加代	鞍手保健所長
香月	進	嘉穂保健所長
平野	彰一	田川保健所長
吉村	皓子	久留米保健所長
筒井	博之	八女保健所長
中島	乃婦子	山門保健所長
甲斐	祥一	京築保健所長
平田	輝昭	保健福祉部医監

## ワーキンググループメンバー

今地	政美	企画課企画主幹
日吉	由美子	企画課情報統計係長
森松	薫	筑紫保健所総務企画課企画指導係
笠	由美子	筑紫保健所保健課健康増進係
岩佐	一弘	鞍手保健所総務企画課企画指導係長
香月	進	嘉穂保健所長
安部	彬	久留米保健所衛生課食品衛生係
永野	護	久留米保健所保健課健康増進係
立石	信彦	久留米保健所三潴支所長
篠原	志郎	保健環境研究所情報管理課長
片岡	恭一郎	保健環境研究所情報管理課
甲原	隆矢	保健環境研究所情報管理課
眞崎	直子	精神保健福祉センター総務研修課
猿渡	美智代	看護専門学校副校長
平田	輝昭	保健福祉部医監
(オブザーバー)		
河野	亨	障害者福祉課参事補佐

## 2. 2 研修会受講者

## 研修会受講者名簿

保健所	係名	職名	氏名
筑紫保健所	感染症係	主任技師	内村 由美子
粕屋保健所	精神保健福祉係	技術主査	松本 絵里子
粕屋保健所	企画指導係	主任主事	吉岡 雅夫
宗像保健所	企画指導係	技術主査	長谷川 千絵
宗像保健所	感染症係	技術主査	立部 幸枝
朝倉保健所	企画指導係	技術主査	菓 美紀
朝倉保健所	感染症係	主任技師	後藤 都
系島保健所	感染症係	主任技師	中山 雅彦
系島保健所	企画指導係	主任技師	近藤 くみ子
遠賀保健所	企画指導係	係長	岩本 治也
遠賀保健所	結核感染症係	技術主査	藤原 哲治
鞍手保健所	企画指導係	技術主査	犬丸 陽子
鞍手保健所	感染症係	技術主査	高島 洋子
嘉穂保健所	企画指導係	主任主事	大空 仁
嘉穂保健所	精神保健福祉係	主任主事	稲田 清美
田川保健所	感染症係	技術主査	占部 秀晴
田川保健所	健康増進係	主任技師	川崎 弥也
久留米保健所	感染症係	技術主査	田中 博文
久留米保健所	企画指導係	技師	吉松 綾子
久留米 浮羽支所	保健課	主任技師	西田 郁江
久留米 浮羽支所	総務衛生課	主事	真子 剛幸
久留米 三潴支所	総務衛生課	主任技師	松下 隆志
久留米 三潴支所	保健課	主任技師	大宜見 健二
八女保健所	感染症係	技術主査	宮本 幸二
八女保健所	健康増進係	技術主査	坂田 郁子
山門保健所	企画指導係	技術主査	上田 修
山門保健所	感染症係	主任技師	原田 優美子
京築保健所	感染症係	事務主査	田中 浩二
京築保健所	精神保健福祉係	技師	野田 利絵
京築 築上支所	保健課	技術主査	柴田 和典
京築 築上支所	保健課	技術主査	清永 のり子

## 2.3 研修会の経過

## 厚生科学研究に係る保健情報処理研修会の研修経過

### 1 研修目的

「保健所の調査企画部門充実のための研修のあり方、体制整備に関する研究」（主任研究者 平田輝昭）の一環として、保健所職員を対象に、保健情報の適切な処理（情報の収集・管理・集計・加工・分析・活用）についての研修を実施し、もって地域保健のあり方の科学的考察の推進に寄与する。

2 平成11年9月から毎月1回、福岡県保健環境研究所において、保健所職員（各保健所、支所2名ずつ）対象に保健情報処理に関する研修を実施し（計8回）、平成12年3月8日をもって終了した。

### 3 研修日時と内容

回	研修期日	曜日	時間	研修内容	講師名	レジメ等
1回目	9月22日	(水)	10:00~12:00	開講式,オリエンテーション,平田主任研究者の講義	平田	
			13:00~16:00	LANの説明,コンピュータの基礎,インターネット,E-MAIL	甲原	41~89
2回目	10月28日	(木)	10:00~12:00	地域診断DBの説明,地域診断DBを用いた人口動態解析1	片岡	107~140
			13:00~16:00	地域診断DBを用いた人口動態解析2	片岡	107~140
3回目	11月10日	(水)	10:00~12:00	地域診断DBを用いた人口動態解析3	片岡	107~140
			13:00~16:00	地域診断DBのしくみ(クエリー,モジュールの説明)	甲原	90~106
4回目	12月1日	(水)	10:00~12:00	地域診断DBを用いた人口動態解析4	片岡	107~140
			13:00~16:00	結核データベースの作成と活用1	平田	141~177
5回目	12月22日	(水)	10:00~12:00	統計の基礎知識とアンケートの取り方1	篠原	178~207
			13:00~16:00	結核データベースの作成と活用2	平田	141~177
6回目	1月19日	(水)	10:00~12:00	統計の基礎知識とアンケートの取り方2	笠	208~257
			13:00~16:00	統計の基礎知識とアンケートの取り方3	笠	208~257
7回目	2月16日	(水)	10:00~12:00	グループワーク1	森松	258~259
			13:00~16:00	結核データベースの作成と活用3	平田	141~177
8回目	3月8日	(水)	10:00~12:00	統計の基礎知識とアンケートの取り方4	篠原	260~273
			13:00~16:00	グループワーク2	森松	258~259

\*1 研修に入る前と後にアンケート調査を実施した。

\*2 各回の研修会終了後に保健環境研究所から各保健所へ電子メールの宿題（研修会の講義に対する感想や希望のアンケート）を出し、受講者は次回研修会までに宿題提出（電子メール返信）を行った。

#### 4 研修会事前アンケート結果

あなたの所属する課・係はどちらですか？

所属	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
感染症係	10					5		5
企画指導係	8	2	2		2	2		
健康増進係	2							2
支所総務衛生課	2	1		1				
支所保健課	4	1	1			2		
精神保健福祉係	1					1		
合計	27	4	3	1	2	10		5

あなたの職種は何ですか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
はい	27	4	3	1	2	10		5

職場に、あなたが必要なとき概ね利用できるコンピュータはありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
はい	27	4	3	1	2	10		5

そのコンピュータの、OS(オペレーションシステム)はなんですか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
WINDOWS95/98	26	3	3	1	2	10		5
その他	1							1
合計	27	3	3	1	2	10		6

あなたは個人でコンピュータを所有していますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
はい	21	2	3	1	2	8		4
いいえ	6	2				2		1
合計	27	4	3	1	2	10		5

あなたのコンピュータの、OS(オペレーションシステム)は何ですか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
WINDOWS95/98	18	2	2		2	7		4
Mac	4		2	1				1
MS-DOS/Windows3.1	2		1			1		
その他	1							1
合計	25	2	5	1	2	8		6

日頃使用している表計算ソフトは何ですか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
EXCEL	16	2	3		1	5		4
LOTUS123	8	1			1	3		3
その他	1		1					
使っていない	6	1		1		3		1
合計	31	4	4	1	2	11		7

そのソフトのバージョンを知っていますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
知っている	14	1	3		1	4		4
わからない	8	3			1	3		1
合計	22	4	3		2	7		5

その利用程度について

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
自分でプログラム(マクロ)を作ったことがある	1							1
自分で自動計算の表を作ったことがある	4	1			1			1
足し算、引き算、かけ算、わり算に利用している	9	1	3			2		3
データ入力をしたことがある	15	2	2		1	6		4
人が使っているのを見たことがある	4	2				1		1
合計	33	6	5		2	9		10

日頃使用しているワープロソフトは何ですか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
一太郎	23	4	2	1	2	8		4
ワード	4	1	2			1		
使っていない	1					1		
合計	28	5	4	1	2	10		4

そのソフトのバージョンを知っていますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
知っている	22	3	3	1	2	7		4
わからない	2	1				1		
合計	24	4	3	1	2	8		4

日頃使用しているデータベースソフトは何ですか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
カード	1							1
dBASEⅢ	3		1					2
アクセス	7	1	1	1	1	3		
その他	2		2					
わからない	3	2				1		
使っていない	10	1			1	4		2
合計	26	4	4	1	2	8		5



そのソフトのバージョンを知っていますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師
知っている	7	1	3		1		2
わからない	7	3		1		3	
合計	14	4	3	1	1	3	

その利用程度について

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師
自分でプログラム(マクロ)を作ったことがある	2		1				1
検索・集計をしたことがある	4		2			1	1
データを入力したことがある	9	1	2	1	1	3	1
人が使っているのを見たことがある	3	2				1	
合計	18	3	5	1	1	5	3

これまで職場でWISHやWISH-NETを利用したことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	6	2	1			2		1
ない	13	1	2		2	4		3
何のことかわからない	6	1		1		3		1
合計	25	4	3	1	2	9		4

これまでどこかでインターネットを利用したことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	15	4	3	1	1	3	2	1
ない	10				1	6		2
合計	25	4	3	1	2	9	4	2

個人でインターネットのプロバイダーに加入していますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
している	7	2	1	1		2		1
していない	16	2	2		2	5		3
何のことかわからない	2					2		
合計	25	4	3	1	2	9		4

個人でNiftyserve、PC-VAN等に加入していますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
している	5	2	1			1		1
していない	17	2	2	1	2	5		3
何のことかわからない	3					3		
合計	25	4	3	1	2	9		4

今までに、パソコン通信やインターネットで電子メールを送ったことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	12	3	3	1	1	2		2
ない	12	1			1	6		2
何のことかわからない	1					1		
合計	25	4	3	1	2	9		4

パソコンLANとは何の略であるか知っていますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
知っている	12	3	2	1	1	2		1
わからない	13	1	1		1	7		2
合計	25	4	3	1	2	9		4

学校卒業後、保健統計・疫学の研修を受けたことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	6		1			4		1
ない	21	4	2	1	2	6		5
合計	27	4	3	1	2	10		5

これまで「衛生統計年報」(福岡県版)を利用したことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
よく利用する	1					1		
見たことはある	22	3	3	1	1	8		4
見たこともない	3	1			1			1
合計	26	4	3	1	2	9		5

平成10年4月から現在まで、衛生統計担当者に対し人口動態調査結果など統計資料の閲覧を依頼したことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	10	2	1			5		2
ない	16	2	2	1	2	4		3
覚えていない	1					1		
合計	27	4	3	1	2	10		5

次のそれぞれの言葉についてお答え下さい。

正規分布	回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
調査研究で使ったことがある		4		1			3		
内容が理解できる		13	2	2			4		1
聞いたことがある		8			1	2	3		1
何のことかわからない		2	2						
合計		27	4	3	1	2	10		5

標準偏差	回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
	調査研究で使ったことがある	3		1			2		
	内容が理解できる	11	2	2			2		4
	聞いたことがある	10			1	2	5		1
	何のこともわからない	2	2						
	合計	26	4	3	1	2	9		5

推定	回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
	調査研究で使ったことがある	1					1		
	内容が理解できる	4		2			1		1
	聞いたことがある	17	3	1	1	2	6		3
	何のこともわからない	4	1				1		2
	合計	26	4	3	1	2	9		5

検定	回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
	調査研究で使ったことがある	5		1			4		
	内容が理解できる	4		2			1		1
	聞いたことがある	13	2		1	2	4		3
	何のこともわからない	5	2				1		2
	合計	27	4	3	1	2	10		5

信頼区間 (95% C.I.)	回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
	調査研究で使ったことがある	1		1					
	内容が理解できる	5		2			3		
	聞いたことがある	14	2		1	2	4		3
	何のこともわからない	6	2				2		2
	合計	26	4	3	1	2	9		5

バイアス	回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
	調査研究で使ったことがある	1		1					
	内容が理解できる	6		2			4		
	聞いたことがある	12	1		1	1	5		2
	何のこともわからない	8	3			1	1		3
	合計	27	4	3	1	2	10		5

あなたの職場で「病院台帳」（医療事務）がどのような形で整理されているか知っていますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
知っている	12	1	2		2	4		2
わからない	12	3		1		5		2
合計	24	4	2	1	2	9		4

整理方法をお答え下さい

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
手書きで台帳に記入	5				2	3		
コンピュータ(表計算・データベースソフト)で管理	2							1
手書きで台帳に記入し、かつコンピュータでも管理	4	1	1			1		1
その他	1		1					
合計	12	1	2		2	4		2

福岡県の保健所において、現在コンピュータ処理が全県的に導入されている業務を知っていますか？  
次のうちから、あなたが正しいと思うものをお選び下さい。(複数回答)

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
医療機関行政情報システム	10	2	1			3		3
薬局医薬品販売管理システム	15	2	2		2	4		4
准看護婦免許管理システム	4	1				1		1
食品営業許可管理システム	21	2	2	1	2	8		4
理・美容、クリーニング店許可管理システム	5	1	1			3		
飼犬登録管理システム	21	3	2	1	2	9		2
特定疾患申請件数	3		1			1		1
結核感染症サーベイランスシステム	23	3	3		2	9		4
精神保健福祉データベースシステム	4		1			3		
産業廃棄物関係事業場立入検査	2					2		
浄化槽設置届件数	2					1		1
合計	110	14	13	2	8	44		20

あなたが担当業務を行う上で、全県的なコンピュータ処理システムがあれば便利だと思うことはありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
いつも思う	9	1	2			4		1
たまに思う	14	1	1	1	2	6		2
わからない	3	2						1
合計	26							

あなたの担当する業務上のデータの管理方法について、県庁担当課の係員と打ち合わせたことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	3		1	1	1			
ない	23	4	2		1	10		4
合計	26	4	3	1	2	10		4

保健所内で情報の整理について何らかの検討をしたことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	5		2			2		1
ない	21	4	1		1	2	8	3
合計	26	4	3		1	2	10	4

保健所内で他職員のパソコン操作レベルアップのために、何らかの行動（所内パソコン研修など）を起こしたことがありますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ある	4		1	1		2		
ない	21	3	2		2	8		4
合計	25	3	3	1	2	10		4

研修会は1ヶ月に1回のペースで行う予定ですが、どう思いますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ちょうど良い	24	3	3	1	2	10		3
少なすぎる	1							1
合計	25	3	3	1	2	10		4

時間帯は午前10時から午後4時までの予定ですが、どう思いますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ちょうど良い	23	3	3		1	2	8	4
長すぎる	1						1	
短すぎる	1						1	
合計	25	3	3		1	2	10	4

受講者は各保健所・支所から2名の予定ですが、どう思いますか？

回答	合計	事務	医師	獣医師	薬剤師	保健婦	診療放射線技師	その他
ちょうど良い	23	3	3		1	2	10	2
少なすぎる	1							1
合計	24	3	3		1	2	10	3

## 5 研修会事後アンケート結果

### 研修後アンケート 集計結果

福岡県保健環境研究所 甲原 隆矢

(研修会参加者数：31名、アンケート回答者数：28名、回答率：90.3%)

#### I 研修会全般についてお尋ねします。

##### A 研修会は1ヵ月に1回のペースで行いましたが、いかがでしたか。

－ 75.0%の人が「ちょうど良い」と答えている。「月2回など間隔を詰めてほしい」との要望が6件。

1)ちょうど良い	21	( 75.0%)
2)多すぎた	1	( 3.6%)
3)少なすぎた	6	( 21.4%)
計	28	(100.0%)

##### 《多すぎた》

・2ヶ月に1回

##### 《少なすぎた》

・月2回くらいがよい(期間は短く)【2件】

・集中的に、せめて月2回は行った方がよい

・1～2週間に1回、もしくは短期集中で連日。月1では習ったことを忘れてしまう人もいるのでは？

・週1ペース

・1週間あくと同前のことを忘れてしまう。しかし、仕事の関係では月1くらいだったので出張できた。

##### B 研修時間帯は午前10時から午後4時までとしましたが、いかがでしたか。

1)ちょうど良い	27	( 96.4%)
2)長すぎた	1	( 3.6%) ※午前か午後のみがよい
3)短すぎた	0	( 0.0%)
計	28	(100.0%)

##### C 受講者は各保健所から2名(支所は1名)としましたが、いかがでしたか。

－ 「ちょうど良い」が85.7%。「保健所の規模に応じて割り振ったほうがよい」との意見が3件あった。

1)ちょうど良い	24	( 85.7%)
2)多すぎた	1	( 3.6%)
3)少なすぎた	2	( 7.1%)
その他	1	( 3.6%)
計	28	(100.0%)

##### 《ちょうどよい》

・ちょうどよいが、保健所の定数に応じた数(割合で)が望ましい

##### 《多すぎた》

・1名(所の業務量を考えるに2名は厳しい)

##### 《少なすぎた》

・保健所の規模に応じた人数にして欲しい

・支所1名では少なすぎる

##### 《その他》

・研修機会を平等に与える意味で、保健所の規模により割り振った方がよい